

白鳥楽

花積三千人

280-0011 成田市玉造5-33-1

一つの事柄、物、現象、何でもかまいませんが、それに興味を持った人々が、同行の志が集まって会なりグループが出来るのは珍しい事ではありません。同じ楽しさを分かち合い、語り合うのは楽しいひと時であり、刺激ともなります。そして、その会が発展して全国組織になり、更に、学術的データが蓄積していけば〇〇学会にまで昇華するのもあり得ない話ではありません。

単なる興味で始めた趣味が学会まで発展するというのは、それはそれで素晴らしい事に違いありません。

私の白鳥との出会いは、その越冬地のすぐ傍で生活していながら、大学一年まで待たなければなりません。大学に入り動物研究会という同好会に属することで野生動物を再認識し、彼らの持っている緊張感に魅了されました。そんな時思い出したのが、実家の近くの佐潟に野生の白鳥が越冬していた事です。その年の冬休みに早速、佐潟に白鳥を見に行きました。

白鳥の生態など全く知らない頃でしたので、お昼頃に潟に行ったら数羽居るだけ。それも、潟は今のよう整備されていなかったもので、遠くに見えるだけでした。でも、私を白鳥界に引き込むには十分な出会いでした。野生で生きる白鳥の持つ、張り詰めた雰囲気、緊迫感、すがすがしさ、この鳥を知りたい、単純にそう思いました。それから、佐潟詣でが私の冬のスケジュールに組み込まれました。それから白鳥に関する本を読み、本田さんに出会い白鳥の会を知りました。初めて参加した研修会は、年の福島・阿武隈川大会でした。そこで、多くの会員の方とお話できました、松井会長とも。そして、皆さん、それぞれの白鳥との関り方、興味のある所も異なるのですが、本当に白鳥を楽しんでいると感じました。でも、これだけの地域、会員数になると、ともすると窮屈な学術論になり勝ちなのですが、この会は純粋に白鳥を愛し、それぞれの立場で楽しんでいる。会があって会員があるのではなく、会員一人一人の白鳥への思いが会を形づくっている。そういう“白鳥の会”であることは、松井会長の会に対するコンセプトであったのではと思います。みんなに白鳥を楽しんでほしい、みんなに白鳥を知ってほしいという松井会長の思いが白鳥と人を。人と人を繋いで白鳥を楽しむ道、いうなれば“白鳥楽（はくちょうがく）”を作り上げたのでは、と思います。改めて、そんな白鳥楽を教えてくれた松井会長に感謝するとともに、ご冥福をお祈り致します。